

公

事業所における自己評価総括表

○事業所名	オルオルハウスかすみ		
○保護者評価実施期間	令和7年10月25日		令和7年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36 (回答者数)	15
○従業者評価実施期間	令和7年10月25日		令和7年12月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日替わプログラムでの支援	月曜日：音楽療法とアナログゲームの隔週 火曜日：立体アート 水曜日：アナログゲーム 木曜日：ビジョントレーニング 金曜日体幹トレーニング のプログラムを行っています。微細運動や粗大運動・眼球運動 メモリーや見通し、集中など個人のスキルアップと集団での自 分や相手の気持ちをわかる、出す 支持理解などを行っていま す	講師の先生に入ってもらうことにより、飽きが来ず楽しく プログラムができるようにしています。 講師のいないプログラムに関しては定期的に研修を行い、支 援方法の幅が出るように心がけています。
2	外出体験のイベントが多い	体験の中でリーダーなどの役割を行ったり、経験をすることで の余暇活動の充実につけていきます。また、食育の大切さや自 身で作る楽しさ、自身で気付く喜びなど児童1人1人に合わせた 目標設定をしています。	行事の計画書をしっかり立てて、児童1人1人に楽しく参加で きるように取り組みをしています。また、今度は地域との交 流イベント等も多くなっていく予定です。
3	児童の将来に必要なスキルや体験を経験できる	将来：生活介護・就労支援事業所（A型・B型）・就労移行や一 般就労・余暇活動に必要な生活指導やスキルの獲得を行うた め、ルールのある事業所の活動を行っています。1人1人の現在 のいい所をさらに伸ばしていけるようにプログラムを組んでい ます。まずは楽しく、次にスキルアップができるようにしてい ます。	プログラムの充実の図り、もっと楽しめるようにしていま す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の育成に時間がかかる	知的障害のある児童が多い事業所です。学年も小学1年生～高校 3年生まで在籍しているので個別に対応することも多く、対方法 も異なる為、なかなか1つの支援方法、支援方針ではないので、 職員の理解に時間がかかる事が多いです。勤続年数が増えてい く行くにつれ、チームワークを取りながら支援をしています。	研修の時間多くとっていたり、朝礼などでできるだけ、実践 できるスキルを学ぶことで、統一した支援をしていきます。
2	プログラム上、平日の外出（公園等）の支援があまり できていない	平日は15時までの時間で外出をしていますが、高学年は15時過 ぎからの利用が多い為、なかなか外出支援の時間がとれてい ません。 外出支援の中でできる支援もある為、なかなか心苦しいです。	長期休みや土曜日等でたくさんの時間を取るように取り組 んでします。また、日常の遊びを重視し他児童と遊べるよう に心がけています。
3			